

幼子とともに

2025 年度 9月号

はじめに

二学期が始まりました。皆様の新しい歩みの上に、神様の祝福と御恵みを心よりお祈り申し上げます。新学期もまた、沢山のイベントが予定されています。至らぬ点多々あるかと思いますが、皆様のご理解とご協力を心よりお願い申し上げます。

長い休みを経て、子どもたちは、それぞれのペースで心も体も成長しました。その成長を感謝し、喜びつつ、今の子どもたちに寄り添った教育を続けて参りたいと思います。どうぞ、よろしくお願いします。

大丈夫！

長い休みを経て、幼稚園がスタートすると、どうしても、行き渋りや泣いてしまう子どもたちがいます。赤ちゃん帰りのような状況もあるかもしれません。しかし、この瞬間も大切なのです。子どもの発達には、行ったりは帰るの繰り返しですが、そうやって、自分で気持ちの整理をつける力が養われていくのです。大丈夫です。ゆっくりと見守っていきましょう。

夏期保育中、生き渋って泣いていた子どもがいました。二学期に入ると、泣かずに登園しました。その子は、他の泣いている子の背中を優しくさすってくれました。「一緒に遊ぼう」「待ってたよ」という声掛けも見られました。沢山の人の支えられ、辛さを自分で乗り越えた子は、悲しんでいる人の気持ちを理解する力も得られたのですね。とても、微笑ましい、嬉しい場面の一つでありました。



トラブル多発の二学期

二学期に入ると、子どもたちの視野が、ぐっと広がります。年少さんは、先生と遊ぶことだけではなく、友達と遊んだり、自分で遊ぶ時間が増えてきます。年長さんになると、大きくなった自覚が深まり、考えて遊ぶようになりますし、ルールのある遊びが増えることもあります。力の加減も定着するようになるでしょう。年中さんは、自分の成長に気づき、出来る事が増えると、積極的に友達の数を増やして遊びを展開することもあります。

そのような嬉しい成長がみられる二学期ですが、分かる事や見える事の幅が増えることで、対人関係のトラブルも増えるのも事実なのです。口で言えずに手が出たり、わざと悪い口調で怒ったりなど、子どもたちの世界の中でも、様々なトラブルが多発するのが、この時期の特徴でもあるのです。

しかし、この時期が、とても大切なのです。勿論、大きな事故やケガやトラブルに発展しないように、教師は、できるだけ注意をしますが、まずは子ども自身が、一つ一つの問題を考えることが大切なのです。これはダメ、あれはダメと、大人の価値基準で、先回りをしすぎてしまうことで、子どもが考える、という視点が抜けてしまうこともあるのです。トラブルの多い時期だからこそ、子どもがよく考える時間を大切にしたいと思うのです。それが、ただ、子どもを預かっているだけではない幼稚園のすべき「教育」なのです。子どもたちの発達と人間形成のために、幼稚園と家庭、そして、保護者同志の結束を、ますます強化したいと思うのです。

8番出口（ちょっとネタバレ注意）＊あくまでも個人の感想です。

8月下旬、長女をつれて、映画「8番出口」を初日に鑑賞しました。夕飯時の少し遅い時間であったためか、わりと空席の多い状況で、リラックスしながら鑑賞することができました。映画「8番出口」は、間違え探し系の単純なゲームがもとになっていましたが、演出や脚本で盛りにもって、かなり大きなスケールで作品を仕上げていました。内容としましては、主人公が駅の「8番出口」を目指しながら、異変があれば引き返し、異変がなければ前に進む、という単純なものとなっています。

この映画で興味深いのは、いわゆる「異変」と呼ばれるものが、すべて今ある「社会的問題」を描写しているところにあります。例えば、食糧問題、環境破壊問題、災害問題、人間関係の問題などが「異変」という形で表現されています。そして、何よりも、それを包括するかのようにして「子育てや教育」の課題が表現されています。これは、とても重要なことで、逆に言うならば、子どもが幸せに生きられる社会を作ることが、社会における問題解決の糸口になる、という考え方がここには込められていると言えるわけです。様々な特性を持つ子どもたちが生きやすい、子どもが、子どもとして尊重されて生きられる社会こそが、よりよい社会とされているのです。

越谷幼稚園は、キリスト教の信仰に基づいて、子どもを子どもとして尊重し、神様によって与えられたかけがえのない命として、一人ひとりを宝物として受け止めています。この教育方針こそが、社会を変えると信じていますし、そのためには、保護者の皆さまのご理解とご協力が不可欠であると感じています。

人間は、異変がなければ、前に進みます。異変があれば、逃げ帰ることもあるのです。繰り返しの毎日でもあります。毎日が少し違うのです。それ故に、人は前に進むのです。進むときもあれば、逃げることもあるのです。それで良いのです。それでも、人は前に向かって成長するのではないのでしょうか。本当に、子育ては労苦があると思います。頑張りすぎると、無限ループからぬけ出せないこともあります。時には逃げ、時に進む、それで良いのです。大事なことは、今日を大切に生きることではないかと思います。

園 長 須賀 工

栄養士だより 《食べることがワクワクする！ことを一緒に考えましょう。》

猛暑が続くなかですが、9月をむかえ2学期が始まりました。久しぶりに会う子どもたちは、どの子も笑顔いっぱいです。そしてどの子も表情や身体の成長を見せてくれて、それだけでこちらまで嬉しくなりました。けれども、ご家庭では、長い夏休みの期間のお食事の用意はさぞ大変な作業ではなかったでしょうか。偏食や少食、そもそも食べることに興味がなかったりと、食事についての“気になるところ”もあるのかなあと思います。何かお困りごとや、不明なことがありましたら、お気軽にお問い合わせください。お待ちしております。

まだまだ暑い日が続くそうなので、引き続き水分補給を心がけつつ、一緒にクッキングをしたり、身体についての絵本を見たり（例えば、野菜の効用でビタミンAが不足すると風邪をひきやすくなったり、ビタミンCは赤血球の材料のなることなどを伝える。）しながら、楽しくお食事してほしいと思います。

9月1日は防災の日でしたね。食料、飲料の備蓄は十分でしょうか。防災のために特別な物を準備するというより、普段の生活の中で利用されている食品などを備えるとよいでしょう。また、乳幼児のための非常持ち出し袋には、体温計、多めのお着替えや履き替えの靴、加えて、かさばらないおもちゃや折り紙などを入れると良いでしょう。

いけだかずみ